

決算の概要について

学校法人二階堂学園の令和5年度決算は、監事および公認会計士の監査を経て、5月28日の理事会において承認され、評議員会で報告いたしました。

資金収支計算書について

【収入の部】

① 学生生徒等納付金収入

大学で、学費未納による除籍者が見込みよりも少なかったこと、附属高校で東京都授業料軽減補助対象者が見込みよりも少なかったこと等により、「学生生徒等納付金収入」全体では予算と比較して900万円強増加し、決算額は29億7,700万円強となりました。

② 手数料収入

我孫子高校で、志願者数が補正予算編成時の見込みよりも少なかったため、入学検定料収入が減少となり、「手数料収入」全体では予算と比較して100万円強減少し、決算額は4,900万円強となりました。

③ 寄付金収入

創立100周年記念募金で、寄付金額が補正予算編成時の見込みよりも少なかったことにより、予算額と比較して2,000万円強減少し、決算額は4,300万円強となりました。

④ 補助金収入

我孫子高校の経常費補助金や附属保育園の運営費助成金が、補正予算積算時よりも増加したことにより、「補助金収入」全体では予算と比較して900万円強増加し、決算額は9億9,600万円強となりました。

⑤ 付随事業・収益事業収入

みどり幼稚園と二階堂幼稚園で預り保育収入が増えたことにより、「付随事業・収益事業収入」全体では予算と比較して200万円強増加し、決算額は2億500万円強となりました。

⑥ 受取利息・配当金収入

補正予算積算時に、受取利息・配当金を低めに見積もっていたため、予算と比較して900万円強の増加となり、決算額は9,900万円強となりました。

⑦ 雑収入

大学と附属高校で施設の貸し出しが増えたことや、補正予算編成後に複数名の任意退職者が生じたことにより各退職団体からの交付金収入があったこと等により、「雑収入」全体では予算と比較して800万円強増加し、決算額は1億2,500万円強となりました。

⑧ 借入金等収入

附属高校の入学支度金利用希望者が少なかったため、予算と比較して200万円強減少して、決算額は120万円となりました。

⑨ 前受金収入

大学の在学生（新2年生から4年生）の令和6年度分の納付金納入者が見込より多かったこと、我孫子高校で新入生数が見込みよりも多かったことにより、予算と比較して6,400万円強増加し、決算額は9億3,300万円強となりました。

⑩ その他の収入

預り金収入（純額表示）が、補正予算積算時と比較して減少したこと等により、「その他の収入」全体では予算と比較して5,500万円強減少し、決算額は12億6,400万円強となりました。

⑪ 資金収入調整勘定

補正予算積算時の見込みよりも増加した、各退職団体からの交付金収入が未収入金になったこと、大学で省エネ設備導入・運用改善支援事業助成金、附属保育園で運営費補助金等の未

収入金があったこと等により、期末未収入金が増加したため、予算と比較して1億3,000万円強増加し、決算額は△11億3,700万円強となりました。

【支出の部】

① 人件費支出

附属高校と二階堂幼稚園の教員と、事務職員の超過勤務手当が見込み額を下回ったこと等により、「人件費支出」全体では予算と比較して900万円強減少し、決算額は23億6,600万円強となりました。

② 教育研究経費支出

消耗品費等で経費節減に努めたこと、学園創立百周年記念館関係の消耗品費、光熱水費等を多めに見積っていたこと、各所修繕費の執行残が出たことにより、「教育研究経費支出」全体では予算と比較して1億200万円強減少し、決算額は15億400万円強となりました。

③ 管理経費支出

烏山地区の警備料の執行残が出たこと、大学で学生寮の光熱水費、保育園で給食委託費や宿舍借上げ（賃借料）の予算を多く見積もっていたこと等により、「管理経費支出」全体では予算と比較して4,900万円強減少し、決算額は5億1,000万円強となりました。

④ 施設関係支出

建物支出で、大学の学園創立百周年記念館新築工事や第3体育館2階の床・照明改修工事、附属高校のE棟3階ダンス教室リノリウム敷設工事、我孫子高校の東館1階女子トイレ改修工事等がありました。また、構築物支出では、学園創立百周年記念館新築工事や、二階堂幼稚園のフェンス改修工事等がありました。第3体育館2階の床の工法の見直しや入札により執行額が予定より抑えられたこと等により、「施設関係支出」全体では予算と比較して200万円強減少し、決算額は30億8,900万円強となりました。

⑤ 設備関係支出

教育研究用機器備品支出で、大学の学園創立百周年記念館新築に伴う体育室の器具や什器備品、音響機器等の支出がありましたが、入札により執行額が予定より抑えられたことや、使用可能な既存の什器備品を移動するなどの節約に努めた結果、「設備関係支出」全体では予算と比較して2,500万円強減少し、決算額は2億700万円強となりました。

⑥ その他の支出

前払金支払支出、前期末未払金支払支出等の科目で、予・決算の差異が生じ、「その他の支出」全体では予算と比較して2,500万円強増加し、1億200万円強の決算額となりました。

⑦ 資金支出調整勘定

調整してマイナスする期末未払金が、予算と比較して1,300万円強増加し、「資金支出調整勘定」全体で△7,800万円強の決算額となりました。

⑧ 翌年度繰越支払資金

以上の収支の結果、翌年度へ繰り越す支払資金（令和5年度末の現預金の額）は、23億2,600万円強となりました。これは、前年度末と比較すると27億9,300万円強の減少になります。

事業活動収支計算書について

令和5年度の事業活動収支計算書の概要は、次のとおりです。

事業活動収入は、教育活動収支で「学生生徒等納付金」「経常費等補助金」等が増加、「手数料」は入学検定料の伸び悩みから減少しました。また、教育活動外収支では「受取利息・配当金」が増加し、全体では補正予算と比較して1,000万円強の増加となり、決算額は45億1,000万円強となりました。

事業活動支出は、教育活動収支で「教育研究経費（消耗品費・光熱水費・修繕費等）」の執行率が95.0%、「管理経費支出（報酬・委託手数料等）」の執行率が92.2%にとどまったこと等によ

り、全体では補正予算と比較すると2億4,100万円強減少し、決算額は50億2,300万円強となりました。

これにより、補正予算では「基本金組入前当年度収支差額」が、7億6,400万円強の支出超過となっていました。また、「基本金組入額合計」は、△15億4,900万円強の組入額となりました。

この結果、当年度収支差額は補正予算では24億1,300万円強の支出超過を見込んでいましたが、決算では20億6,200万円強の支出超過となりました。

「前年度繰越収支差額」は、50億800万円強の支出超過でしたが、「基本金取崩額」600万円強を含めた今年度の決算（収支結果）を受けて、「翌年度繰越収支差額」は、70億6,400万円強の支出超過となっています。

貸借対照表について

令和5年度（令和6年3月31日現在）の貸借対照表の概要は、次のとおりです。

「資産の部」では、学園創立百周年記念館が完成したことに伴い、「建物」や「構築物」、「教育研究用機器備品」が増加し、「建設仮勘定」は各勘定科目に振替を行ったことにより減少して、「有形固定資産」が26億9,900万円強増加しました。「特定資産」は、「2号基本金引当特定資産」と「施設整備引当特定資産」が、学園創立百周年記念館建設の支払いを行ったことにより合わせて6億3,000万円減少しました。このため、「固定資産」全体では、前年度末と比較して19億9,500万円強増加しました。「流動資産」は、学園創立百周年記念館建設の支払いにより「現金・預金」が27億9,300万円強減少したこと等により、全体で28億3,300万円強の減少となりました。

この結果、「資産の部合計」は、前年度末と比較して8億3,700万円強減少し、302億6,400万円強となりました。

「負債の部」は、学園創立百周年記念館建設のための借入金の返済を行ったことにより、「負債の部合計」が前年度末と比較して3億2,500万円強減少し、43億6,800万円強となりました。

「純資産の部」は、学園創立百周年記念館建設の支払いに充てたことにより、第2号基本金が減少、建設費の一部支払い等により第1号基本金増加し、「基本金」全体では15億4,300万円強増加しました。また、「繰越収支差額」は20億5,600万円強減少し、△70億6,400万円強となりました。

この結果、「純資産の部合計」は、258億9,500万円強となりました。

以 上